

## 1

## カルビー株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● カルビーグループの排出量だけでなく、サプライチェーン全体の排出量を算定し、地球温暖化の要因である温室効果ガス排出量及びプロセスを明確にし削減を推進する。</li><li>● ステークホルダーへの情報開示の要求に応えるため。</li></ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン排出量を把握し、削減すべき対象を明確にし、要因を特定することで、削減への施策へつなげる。</li><li>● CDPをはじめとする各種アンケート、自社のウェブサイト・レポート類の刊行物等で情報開示する。</li></ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● Scope1,2,3における排出量算定により、カルビーグループとして取り組むべき課題が明確になる。</li><li>● 具体的な削減数値として開示が可能となる。</li></ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 生産管理部及びサステナビリティ推進部が主管となり、各担当部門よりデータを収集、算定を実施。</li></ul>

## 2

## カルビー株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料及び容器・包装の製造工程、輸送・搬送の温室効果ガス排出量の割合が高く、サプライチェーンエンゲージメントを推進し、排出量全体を削減していくことを推進する。</li> </ul>
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定のデータ取りに時間を要すること。</li> <li>● 算定対象範囲を国内外に拡大する。</li> </ul> <p>* 2020年度の算定においてカルビー国内工場にカルビーポテト株式会社及びジャパンフリトレー株式会社を加え、第三者検証の範囲を拡大</p>
⑦ その他 (任意)	

## 3

## カルビー株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材購入量 重量優先次に金額の順に把握	● 原単位SC-DB,味の素DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 原単位SC-DB
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気のエネルギー使用量	● CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主輸送のトンキロ ● サプライヤー輸送はシナリオ	● トンキロ法
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量 ● 排水施設からの発生量	● 原単位SC-DB ● 排水処理DB
カテゴリ6「出張」	● 従業員の出張日数（国内・海外含む）	● 原単位SC-DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員営業日数	● 原単位SC-DB
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● リース車両	● 原単位SC-DB
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 出荷重量、製品輸送はシナリオ	● 輸送時の排出原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 容器包装リサイクル量	● 原単位SC-DB
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● 該当なし
「その他」	●	●

# 4

## カルビー株式会社

### サプライチェーン排出量算定結果

